

平成30年6月12日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標題	農林大畜産専攻生が管内牧場を見学 ～普及部からの提案により開催～
-----------	----------------------------------

(ダイジェスト)

管内は、県内でも畜産の盛んな地域で、多くの農業法人があり、雇用労働力も活用した経営が行われています。今後の肉用牛生産を支える担い手確保に向けて、農林大学校に提案し、肉用牛を学ぶ学生の管内牧場見学が開催されました。

管内は、県内の黒毛和種繁殖雌牛頭数の2割を占め、雇用労働力を取り入れて多頭飼育をする経営体が複数あります。様々な業種で人手不足が言われていますが、畜産業についても例外ではなく、各経営体が労働力確保に苦心しているところです。

島根県立農林大学校には肉用牛専攻コースがありますが、残念ながら、現在、管内出身の学生がいない状況です。このため、管内の畜産農場を知っていただこうと、農林大学校に提案し、授業の一環で管内牧場見学を開催していただきました。

6月7日に、管内の肉用牛生産3牧場を訪問し、各農場長らから牧場の概要や生産にあたって留意している点などを紹介していただきました。

今回の見学を通じて、学生の肉用牛に対する関心や知識が深まること、また、一人でも多く今後の「しまね和牛」生産に携わる担い手が誕生してくれることを期待しています。

普及部としては、今後とも牧場の課題解決に寄り添うため、就農・就業までの体系化を目指すとともに、スマート農業の実現に向けた新技術導入などを探っていこうと考えています。

